

中国木材が取り組む、苗を軸とした地域活性化
—未来の森林を育む苗づくりと人材育成—

中国木材株式会社

はじめに

宮崎県は杉丸太生産量で 32 年連続日本一を誇っています。一方で近年の再造林率は 70%前後に留まっています。その背景として恒常的な苗不足があります。以下で、中国木材が取り組む苗事業と人材育成について、未来の森林を育むための社内外への貢献をご紹介します。

1. 宮崎県 日向工場の建設と運営

中国木材株式会社は、広島県呉市に本社を置き、70 年以上にわたって木材加工事業を展開してきました。2014 年に宮崎県日向市に工場を設立し、宮崎県産材を中心に九州産材を活用し、地域経済の発展に寄与しています。



中国木材 日向工場全景（日向市細島）



日向工場 丸太置場

2-1. 長倉樹苗園との連携

2023 年に、宮崎県内で長年苗木生産に取り組んできた老舗企業である長倉樹苗園に出資し、完全子会社として全面支援しています。同社の持つ豊富な経験と技術力、そして森林再生への情熱を活かし、苗木生産の効率化と安定供給体制の構築に努めています。



コンテナ式 スギ苗の育成



スプリンクラーを備えた育苗棟

2-2. みやざき林業大学校への寄付

2024年5月に、私募債の発行に伴い、手数料の一部と併せて100万円をみやざき林業大学校へ寄付しました。将来を担う林業人材の育成に貢献することで、地域における林業の発展に寄与することを目指しています。



3. 未来への展望

中国木材は、苗づくりを通じて、未来の森林を育むと共に、地域社会の発展と環境保全に貢献することを目指しています。今後も、苗木生産事業と人材育成に力を入れていくことで、苗を起点とした林業のサステナビリティを向上させると共に、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

企業版ふるさと納税（中国木材 私募債）



（左から）宮崎銀行 横山日向支店長、宮崎県 河野知事、中国木材堀川社長、荻原副本部長